

JP2001106628

## ANSWER 1 OF 2 CAPLUS:

ACCESSION NUMBER: 2001:270396 CAPLUS  
 DOCUMENT NUMBER: 134:300849  
 TITLE: Base film and material suitable for medical adhesive tape  
 INVENTOR(S): Kishii, Shiro; Ishiguro, Michihiro  
 PATENT ASSIGNEE(S): Kuraray Plastics Co., Ltd., Japan  
 SOURCE: Jpn. Kokai Tokkyo Koho, 5 pp.  
 CODEN: JKXXAF  
 DOCUMENT TYPE: Patent  
 LANGUAGE: Japanese  
 FAMILY ACC. NUM. COUNT: 1  
 PATENT INFORMATION:

PATENT NO.	KIND	DATE	APPLICATION NO.	DATE
JP 2001106628	A2	20010417	JP 1999-285474	19991006
PRIORITY APPLN. INFO.:			JP 1999-285474	19991006

AB The invention relates to a base film and material suitable for use in a medical adhesive tape, e.g. an antiinflammatory patch, etc., providing improved flexibility, wherein the base film contains (1) hydrogenated block copolymer contg. arom. vinyl compd. 5-50 % having glass transition temp. of  $\leq -20^{\circ}$  and av. mol. wt. of  $5-15 \times 10^4$ , and conjugated diene compd. 100, (2) polyolefin 20-200, and a plasticizer 50-200 parts, wherein the film has a thickness of 20-200  $\mu\text{m}$ . A base film was prep'd. from a isoprene-styrene hydrogenated block elastomer (Septon 4033), low-d. polyethylene (Ultzex 1520), and paraffin-based processing oil (Diana process oil PW-380) was prep'd.

## ANSWER 2 OF 2 WPIX:

ACCESSION NUMBER: 2001-435839 [47] WPIX  
 DOC. NO. NON-CPI: N2001-322959  
 DOC. NO. CPI: C2001-132153  
 TITLE: Base material film for skin pasting such as anti-inflammatory agent, comprises plasticizer, polyolefin resin and hydrogenated block copolymer, formed by hydrogenating block copolymer with polymer blocks.  
 DERWENT CLASS: A96 B07 P34  
 PATENT ASSIGNEE(S): (KURP) KURARAY PLASTICS KK  
 COUNTRY COUNT: 1  
 PATENT INFORMATION:

PATENT NO	KIND	DATE	WEEK	LA	PG
JP 2001106628	A	20010417	(200147)*		5

## APPLICATION DETAILS:

PATENT NO	KIND	APPLICATION	DATE
JP 2001106628	A	JP 1999-285474	19991006

PRIORITY APPLN. INFO: JP 1999-285474 19991006

AN 2001-435839 [47] WPIX

AB JP2001106628 A UPAB: 20010822

NOVELTY - A base material film (weight parts) with 20-200 micro m thickness, comprises plasticizer (50-200), polyolefin resin (20-200) and hydrogenated block copolymer (HBC) (100). HBC is obtained by performing hydrogen addition of block copolymer with 1 or more polymer block (B) containing conjugated diene compound, and 5-50 weight% of 2 or more polymer block (A) containing vinyl aromatic compound.

DETAILED DESCRIPTION - A base material film with 20-200 micro m thickness, comprises plasticizer (50-200 weight parts (wt.pts)), polyolefin resin (20-200 wt.pts), and hydrogenated block copolymer (100 wt.pts) with number average molecular weight of 50000-150000. The hydrogenated block copolymer is obtained by performing hydrogen addition of block copolymer with one or more polymer block (B) consisting of conjugated diene compound, and 5-50 weight% of two or more polymer block (A) of glass transition temperature of less than 20 deg. C, consisting of vinyl aromatic compound.

An INDEPENDENT CLAIM is also included for an attachment material which has an adhesive layer formed on the base material film.

USE - The invention is used for film-like skin pasting such as an anti-inflammatory agent and insect bite drug, or for sports articles, leisure articles, toys, foodstuffs, packaging films, sanitary materials such as adhesive plaster or poultice.

ADVANTAGE - The attachment material formed using the base material film, has excellent flexibility, elasticity and skin cracking property.  
Dwg.0/0

## ⑫ 公開特許公報(A)

平1-106628

⑮ Int. Cl.<sup>4</sup>H 04 B 1/08  
H 04 N 5/44  
7/20

識別記号

庁内整理番号

E-6945-5K  
K-6957-5C  
8725-5C

⑬ 公開 平成1年(1989)4月24日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 衛星放送テレビ受信機のチューナ回路

⑯ 特 願 昭62-264645

⑰ 出 願 昭62(1987)10月20日

⑱ 発 明 者 叶 内 安 繁 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

⑲ 出 願 人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

⑳ 代 理 人 弁理士 古澤 俊明 外1名

明 細 書

## 1. 発明の名称

衛星放送テレビ受信機のチューナ回路

## 2. 特許請求の範囲

パラボラアンテナで受信した衛星放送信号をコンバータで第1のIF信号に変換した後、プリセクタ回路に同調電圧を印加して所定の周波数の信号を抽出するようにした回路において、前記プリセクタ回路は、マイクロストリップラインにて段間複同調を形成し、かつこのマイクロストリップラインは、1次側と2次側の共振ラインのある位置からプリント基板上にパターン化により結合してなることを特徴とする衛星放送テレビ受信機のチューナ回路。

## 3. 発明の詳細な説明

## 「産業上の利用分野」

本発明は衛星放送テレビ受信機のチューナ回路に関するものである。

## 「従来の技術」

一般に、衛星放送テレビ受信機は、通常の地上

放送テレビ受信機の前段にアダプタとしてのチューナ回路が結合される。

このチューナ回路について説明すると、パラボラアンテナで11GHz帯と4GHz帯の衛星放送信号を受信すると、コンバータで、950~1450MHz帯の第1の中間周波(IF)信号に変換し、この第1のIF信号は増幅回路で増幅され、プリセクタ回路で所定の周波数の信号を選択してミキサ回路に送り、このミキサ回路では発振回路の局部発振信号と混合し、134.26MHzの第2の中間周波(IF)信号を得、これを増幅回路で増幅した後、ローパスフィルタ(LPF)回路を経てさらに増幅回路で増幅し、通常のテレビ受信機の復調回路へと送られる。

しかるに、通常のテレビ受信機のUHFチューナ回路では、同調コイルは、周波数が高いため、第3図の示すように、銅板をコ字形や棒状に打ち抜いたマイクロストリップライン(16)…をプリント基板(17)の貫通孔(18)…に差し込み、半田等で固着してなるものである。

「発明が解決しようとする問題点」

マイクロストリップラインは、周波数が低い場合は長く、高くなるに従い短くなるが、従来のように、銅板を打ち抜いたものでは、プリント基板への固着の際、半田のわずかな量のちがいや、プリント基板からわずかに浮き上がったりすると、周波数特性が変化してしまうという問題があった。「問題点を解決するための手段」

本発明は上述のような問題点を解決するためになされたもので、パラボラアンテナで受信した衛星放送信号をコンバータで第1のIF信号に変換した後、プリセクタ回路に同調電圧を印加して所定の周波数の信号を抽出するようにした回路において、前記プリセクタ回路は、マイクロストリップラインにて段間複同調を形成し、かつこのマイクロストリップラインは、1次側と2次側の共振ラインのある位置からプリント基板上にパターン化により結合してなるものである。

#### 「作用」

パラボラアンテナで11GHz帯と4GHz帯の衛星放送信号を受信すると、コンバータで950～1450MHz

段増幅回路(13)を介して出力端子(14)が結合されている。また、前記第2IF用の初段増幅回路(11)には自動利得制御(AGC)回路(10)が結合されている。前記発振信号増幅回路(9)の出力側には第2IF信号(134.26MHz)のずれ検出用十分周回路(15)が結合されている。

前記プリセクタ回路(6)は、第1図に示すように、マイクロストリップライン(16a)(16b)(16c)(16d)(16h)、可変容量ダイオード(19)(20)の他に、抵抗(21)(22)、コンデンサ(23)(24)(25)(26)(27)(28)(29)からなり、前記マイクロストリップライン(16a)(16b)(16c)(16d)(16h)はプリント基板(17)上に直接印設されるとともに、1次側(16a)(16b)と2次側(16c)の結合をそれぞれの共振ライン(16h)のある適当な位置からパターンで結合する。またミクサ回路(7)のコイルもマイクロストリップライン(16e)(16f)(16g)をプリント基板(17)上に直接印設する。

なお、(30)は、同調電圧入力端子、(31)は信号入力端子、(32)は局部発振信号入力端子、(33)は

の第1のIF信号に変換され、プリセクタ回路では、同調電圧に対応した周波数の信号が選択され、この信号はミクサ回路で134.26MHzの第2のIF信号を得、この信号は第2IF用増幅回路で増幅される。このとき、前記プリセクタは、プリント基板に直接マイクロストリップラインをパターン化して形成したので、極めて正確な周波数の第2のIF信号に変換される。

#### 「実施例」

以下、本発明の一実施例を図面に基づき説明する。

(1)はパラボラアンテナで、このパラボラアンテナ(1)はコンバータ(2)を介してチューナ回路(3)の入力端子(4)に結合されている。この入力端子(4)は第1IF用増幅回路(5)、プリセクタ回路(6)を介してミクサ回路(7)に結合され、また、このミクサ回路(7)には発振回路(8)と発振信号増幅回路(9)が結合されている。このミクサ回路(7)の出力側には、第2IF用の初段増幅回路(11)、ローパスフィルタ(LPF)回路(12)、第2IF用の2

134.26MHzの第2IF信号出力端子である。

つぎに本発明の作用を説明する。

パラボラアンテナ(1)で11GHz帯と4GHz帯の衛星放送信号を受信すると、コンバータ(2)で、950～1450MHz帯の第1の中間周波(IF)信号に変換してチューナ回路(3)の入力端子(4)に入力する。この入力端子(4)に入力した第1のIF信号は第1IF用の増幅回路(5)で増幅され、プリセクタ回路(6)では、同調電圧入力端子(30)からの電圧に対応した所定周波数の信号を選択してミクサ回路(7)に送られる。このミクサ回路(7)では発振回路(8)と発振信号増幅回路(9)を介して送られてきた局部発振信号と混合し、134.26MHzの第2の中間周波(IF)信号が出力する。この第2のIF信号は第1IF用の初段増幅回路(11)で増幅されるが、このときAGC回路(10)からのAGC電圧で所定の利得に制御される。その後、ローパスフィルタ(LPF)回路(12)を経て第2IF用の2段増幅回路(13)で増幅され、この134.26MHzの第2のIF信号は、出力端子(14)を経て通常のテレビ受信機の

復調回路へと送られる。

#### 「発明の効果」

本発明は衛星放送の周波数が通常のテレビ放送より高く、マイクロストリップラインの長さを短かくできることに鑑み、プリント基板に直接パターン化して形成し、1次側と2次側の結合をそれぞれの共振ラインのある適当な位置からパターンで結合したことにより、希望の選択度(帯域幅)が得られ、なおかつイメージ妨害についても最良値が選択できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明によるチューナ回路中のプリセレクト回路の一実施例を示す電気回路図、第2図は衛星放送テレビ受信機のチューナ回路のブロック図、第3図は従来のマイクロストリップラインの斜視図である。

(1)…パラボラアンテナ、(2)…コンバータ、(3)…チューナ回路、(4)…入力端子、(5)…増幅回路、(6)…プリセレクト、(7)…ミキサ回路、(8)…発振回路、(9)…発振信号増幅回路、(10)…A G C

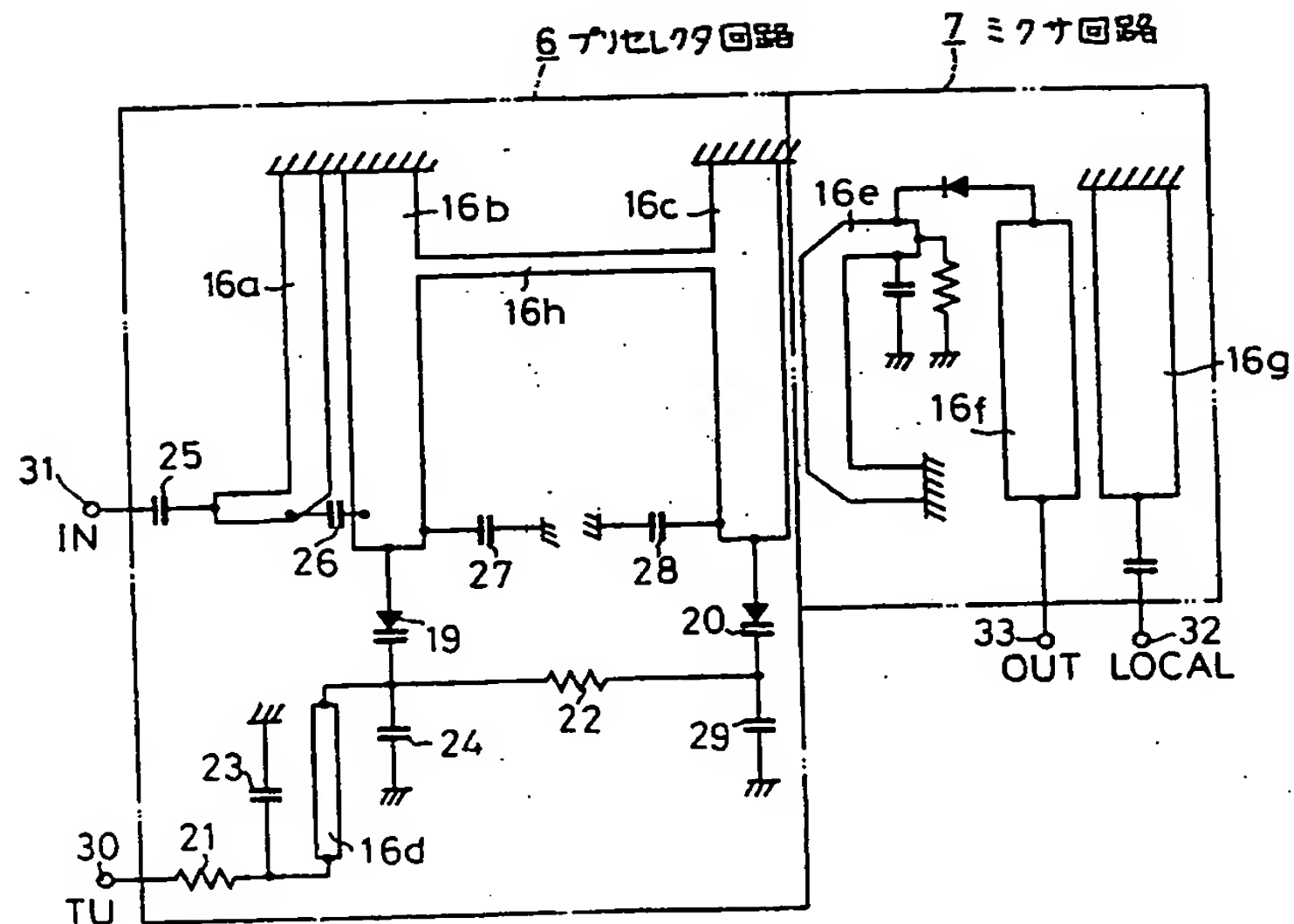
回路、(11)…第2 I F用初段増幅回路、(12)…L P F回路、(13)…第2 I F用2段増幅回路、(14)…出力端子、(16)(16a)～(16h)…マイクロストリップライン、(17)…プリント基板。

出願人 株式会社富士通ゼネラル

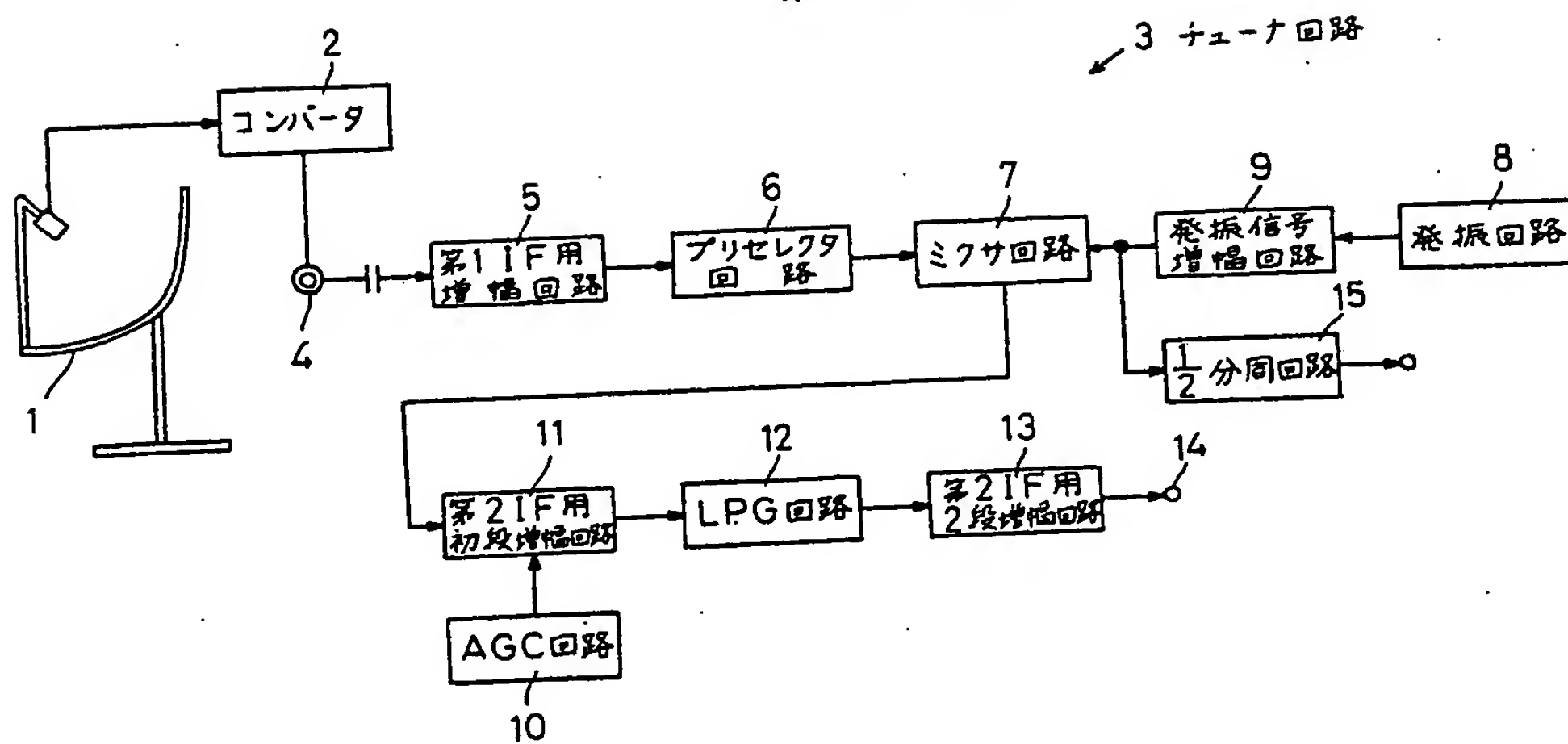
代理人 弁理士 古澤俊明

同 弁理士 加納一男

第 1 図



第 2 図



第 3 図

